

(二〇一一年度)

7 国語問題 (六〇分)

(この問題冊子は19ページ、三問である。)

受験についての注意

- 一、監督の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、携帯電話・PHSの電源は切ること。
- 三、試験開始前に、監督から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号かどうかを確認し、氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 四、監督から試験開始の合図があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっているかどうか確かめること。
- 五、解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
- 六、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能などを使用してはならない。
- 七、マークをするとき、枠からはみ出したり、枠のなかに白い部分を残したり、文字や番号、枠などに○や×をつけたりしてはならない。
- 八、訂正する場合は、消しゴムでていねいに消すこと。消しすぎはきれいに取り除くこと。
- 九、解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。採点が不可能になる。
- 十、試験時間中に退場してはならない。
- 十一、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十二、問題冊子は必ず持ち帰ること。

一

次の文章は、二〇〇二年元旦の朝日新聞の特集「接続詞のない時代」に寄せた井上ひさしの文章である。これを読んで、後の問に答えよ。

ヒトは平均して三五〇グラムの、まっさらな脳をもって母の胎内から^a涙の谷へ旅立つ。このあと、十二歳前後で脳は八割方できあがり、十七、八歳で、平均一三五〇グラムにまで生育し、ついに完成にいたる。つまりヒトの脳は、長い時をかけながら四倍にも増えるのだ。

十二歳前後までがとりわけ重要で、この期間に、ヒトは脳の生育と歩調を合わせながら言葉を習得する。喃語期^{なごご}をへて幼児期に入った彼ら新しいヒトは、なによりも先に、【あつ、う、うん、いや】などの感動詞を身につける。感動詞は一語文^{いちごぶん}、それなりに意味は含んではいるが、孤立した一語文でモノを考えることはできない。そのときそのときの感覚や感想を一方的に表出^bするだけである。

やがて彼らは 1 代名詞の使い方を会得する。ボクという代名詞を覚えることで、母と一体の至福のときに別れを告げる。ボクと母とは、ちがう存在だと、ボクという代名詞を使うこと²で知ってしまうのだ。こうして自我意識が芽生え、彼らはゆつくりと「自己」というものをつくりはじめる。

そうするうちにも、基本的な生活語彙はすさまじい勢いで増えてゆき、就学前後に彼の辞書はほとんど完備されるが、その総仕上げは接続詞の習得である。

「でもさ」で 3、「それからさ」で 4、「それでね」で 5、「だから、そうすると、そうしたら」で考えを先へ先へと展開する。接続詞を駆使することでコトガラの意味を確定し、継続し、否定し、仮定し、補足し、ひっくるめて〈考えるヒト〉になる。こうして「人間」が誕生する。

獲得した膨大な語彙群を整理するのも接続詞の役目である。雑然とした集まりの語彙群を、たとえば、【宇宙―銀河系―太

陽系―地球―アジア―東アジア―日本国―〇〇県―〇〇市―〇〇町―〇〇番地―自分の家】というふうcに秩序づけることができるのも、接続詞や接続助詞があればこそだ。こうして接続詞を駆使することで秩序づけられた世界観、「世界とは、どうやらこういうものらしいぞ。それならばこう生きて行こう」という見方をもとに、彼らはそれぞれの人生観を築きあげる。万が一、ここまでの作業にしくじると、「十四歳の犯罪」⁶を起す張本人になってしまっておそれがある。彼らも必死だ。

ここまでを、まとめれば、接続詞はまことに偉大、⁷接続詞こそが（考えるヒト）をつくる。

ところで、最近のわたしたちは、考えるための最良の武器である、この接続詞をあまり使わなくなった。⁸超高層ビルが二棟も自爆テロで崩れ落ちるといふ世の中だからムリもない。あんなおぞましい光景を目のあたりにすれば、感動詞を絶叫しながら呆然^{ぼうぜん}としているしかないではないか。そればかりか、むかしなら十年に一回というような大事件がつづげざまにおきるのdで、そのたびに思考が断ち切られ感動詞を叫ぶだけ、接続詞を使う余裕を失ってしまった。

接続詞の失われた時代の象徴の一つに、優勝力士を讃^{たた}えた小泉首相の談話がある。

「感動した」

感動文がそのまま談話になる時代にわたしたちは生きている。

「個人的で、感情的で、断定的な一語文、つまり感動詞を、きっぱりした口調で繰り返し、聞く者に強い印象を与える。そうしておいて、最後は、言っていたこととはちがう、修正した政策を行う」

小泉首相のこの感動詞的政治を高い支持率で応援しているのがわたしたちであってみれば、わたしたちもまた感動詞で考えようとして、考えあぐねている人間になっていることになる。⁹つまり、わたしたちはそろって幼児に退行してしまったのだ。

小泉首相のよさも認めないわけではない。日本の政治的リーダーには珍しく禁欲^{じんよく}の匂いがするし、その身辺は清潔であるらしい。そうでない人物ばかりを首相に迎えなければならなかった国民が、彼の「聖者性」に期待するのは無理からぬことだが、

しかし、いつまでも思考の道具としては使えない感動詞でモノゴトを考えていてはあぶないのではないか。

①株価が半値以下に下落し、②田安が進み、③金融機関が不良債権に苦しみ、④政府の赤字がふくらみ、⑤大中小企業がつぎつぎに崩壊し、⑥全土に失業者が溢れだし、⑦その一方で官僚や政治家の不手際がつづけば、フツの国なら、革命……は大げさでも、大政変がおこるところだが、そうならないのは、わたしたちが、ただびつくり系の感動詞を発するだけで、因果の構造を考える接続詞を棚の上に置きっぱなしにしているからにちがいない。①から⑦までの各項目を、せめて小学生なりに接続詞を駆使して、一つの大きな文脈にまとめることが、今年の優先順位第一の仕事である。

¹²今年、わたしもたいていの情報を遮断して、モノゴトの本質をじっくり考えるつもりだ。【わたしは人間である。そして、アジア人であり、それから、もちろん日本人の一人でもある。いつぼう、わたしは、自分と、家族と、近所と、友人と、仲間と、大勢の人たちと、人並みに生きていきたいと願っている。ところが、それがむずかしくなってきた。しかしながら……】というように、いくつも接続詞や接続助詞を使いながら¹³小学生にかえる。

(井上ひさし「感動詞から離れ、考えるヒトにもどろう」)

〔注〕 ○涙の谷：旧約聖書の詩篇第八四に用いられる。悲しみの中にあるこの世を谷にたとえた語。「嘆きの谷」とも。

○十四歳の犯罪：当時、「十四歳の犯罪」が報道をにぎわせていた。

問一 空欄1に入れるべき語としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 関係 b 不定 c 人称 d 指示

問二 傍線部2の「てしまうのだ」と同様な、ヒトの成長過程に対する筆者の見方が反映されている表現として、もっとも適切なものを次の中(本文中の点線部 a～d)から一つ選べ。

- a 母の胎内から(涙の谷)へ旅立つ。
- b そのときそのときの感覚や感想を一方的に表出するだけである。
- c 彼らはそれぞれの人生観を築きあげる。
- d 超高層ビルが二棟も自爆テロで崩れ落ちるといふ世の中だからムリもない。

問三 空欄3、4、5に入る語としてもっとも適切なものを次の中から一つずつ選べ。

- a 先行文を後へとつなぎ
- b 前の文に新しい意味を加え
- c 前提を覆し
- d 文脈を転換し

問四 なぜ、筆者は、傍線部6「十四歳の犯罪」を起こす張本人になってしまふと危惧するのか。その理由として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 代名詞を正しく習得せず、母と一体のままであるため。
- b 感動詞で考えようとして、考えられない人間になったため。
- c 生活語彙が急速に増加して、人生観が混乱したため。
- d 接続詞を駆使できず、世界観を構築できないため。

問五 傍線部7「接続詞こそが〈考えるヒト〉をつくる」と筆者が考えるのはなぜか。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 言語習得の総仕上げとして、膨大な語彙群を秩序づけるはたらきをもつのが接続詞であるから。
- b 接続詞を効果的に駆使しなければ、雑然とした語彙群を理解することはできないから。
- c ヒトの個体発生においても、系統発生においても接続詞は最終段階で獲得されるものであるから。
- d ヒトの脳の生育と歩調を合わせながら言語を習得するためには接続詞が欠かせないから。

問六 傍線部8「この接続詞をあまり使わなくなった」のは、なぜか。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 考えを先へ先へと展開させることに急ぎすぎたから。
- b 今日では「感動した」の一文が効果的な談話として容認されるから。
- c うまく世界観や人生観を構築できない人間が多くなったから。
- d 思考が断ち切られるような大事件が相次ぐ現代であるから。

問七 傍線部9で用いられる「幼児」とはどういう時期を意味するか、もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 脳がまっさらな時期
- b 代名詞を知らない時期
- c 一語文しか使えない時期
- d 辞書が完備された時期

問八 傍線部10「いつまでも思考の道具としては使えない感動詞でモノゴトを考えていては」とあるが、どういう意味か。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 何を考えているかわからないのは
- b 何か考えているふりばかりをしていては
- c 何も考えようとしらないのは
- d 何とか考えようとしていては

問九 傍線部11「接続詞を柵の上に置きつばなしにしている」とはどういう意味か。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 判断を保留している
- b 思考を放棄している
- c 思考を断念している
- d 真偽を知らずにいる

問十 傍線部12は、なぜモノゴトの本質を考えるには「たいていの情報を遮断」しなければならないのか。その理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 感動文がそのまま談話になる時代なので
- b 大政変がおこるかもしれないので
- c 大事件がつづげざまにおきるので
- d まず自分の家から考えたいので

問十一 傍線部13の「小学生」とは、どういう意味か。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 自分、家族、近所、仲間と、身近な者から見えていく小学生
- b 語彙群を秩序づけ始めた小学生
- c 自我意識が芽生えたばかりの小学生
- d 人生観を築き始めた小学生

二

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

今は昔、小野宮のおほき大臣、左大臣にておはしましたしける時、三月の中旬のころほひ、公事くじによりて内裏うちに参り給ひて、陣かんとまの座におはしましたしけるに、上達部かんとま二三人ばかり参りあひて候はれけるに、南殿の御前の桜の、器うつはの大きに神さびてえもいはぬが、枝も庭まで差しおほひて、おもしろくさきて、庭にひまなく散り積みて、風に吹き立てられつつ水の浪なみなどのやうに見えたるを、大臣、「えもいはずおもしろきものかな。」²例はいみじくさけど、いとかかる年はなきものを。土御門の中納言の参られよかし。これを見せばや」とのたまふほどに、はるかに上達部かんとまの前まへを追おふ音こゑあり。

官人を召して、「この前は誰が参らるるぞ」と問ひ給ひければ、「土御門の権中納言の参らせ給ふなり」と申しければ、大臣、「いみじく興あることかな」と喜び給ふほどに、中納言参りて、座に居るや遅きと、大臣、「この花の庭に散りたる様は、いかが見給ふ」とありければ、中納言、「げにおもしろう候ふ」と申し給ふに、大臣、「さては遅くこそ侍れ」とありければ、中納言心に思ひ給ひけるやう、「この大臣はただいまの和歌4にきはめたる人におはします。それにはかばかしくもなからむことを、⁵面おもなく打ち出でたらむは、⁶あらむよりはいみじくつたなかるべし。さりとして、やむことなき人の、⁷かく責め給ふ事を、⁸すさまじくてやまむも便なかるべし」と思ひて、袖をかきつくろひて、かくなむ申し上げける、

とのもりのものみやつこ心あらばこの春ばかりあさぎよめすな⁸

と。大臣、これを聞き給ひて、いみじくほめ給ひて、「この返し、さらにえせじ。劣りたらむに、⁹長き名なるべし。さりとして、まさらむことはあるべきことにもあらず」とて、「ただ旧歌ふるうたぞおほえまさまむ」と思ひ給ひて、¹⁰忠房が唐へ行くとして読みたりける歌をなむ語り給ひける。

(『今昔物語集』)

〔注〕○小野宮のおほき大臣―藤原実頼。九〇〇〜九七〇。 ○器―樹木の空洞になつたところ。 ○土御門の(権)中納言―藤

原敦忠。九〇六〜九四三。○とのもりのとものみやつこ心あらばこの春ばかりあさぎよめすな―『拾遺和歌集』雑春に源公忠(八八九〜九四八)の歌として載る。ここは、自作歌ではなく、公忠の歌を披露したもの。○とのもりのとものみやつこ―主殿寮とのもりのつかさの下級宮人。宮中の清掃などを担当した。○あさぎよめ―毎朝宮中でおこなわれる掃除。○忠房が唐へ行くとして読みたりける歌―『古今和歌集』卷十八に出る藤原忠房の歌「なよ竹のよ長きうへに初霜のおきゐてものを思ふころかな」をさす。

問一 傍線部1の「浪」と同じ表現を、次の和歌から一つ選べ。

- a 谷風にとくる氷のひまごとにうち出づる浪や春の初花
- b 河風の涼しくもあるかうち寄する浪とともにや秋は立つらむ
- c 桜花散りぬる風のなごりには水なき空に浪ぞたちける
- d 草も木も色かはれどもわたつうみの浪の花にぞ秋なかりける
- e 秋風に浪やたつらん天河わたるせもなく月の流るる

問二 傍線部2「例はいみじくさけど、いとかかる年はなきものを」の現代語訳としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 毎年美しく咲いているが、これほどみごとな年はないことだなあ。
- b 例年はあまり美しく咲かないが、こんなに美しく咲いた年はないことだなあ。
- c 毎年みごとに咲いているが、今年はいつもの年に及ばないことだなあ。
- d 毎年立派に咲いているが、このようにうれしい気持ちになる年はないことだなあ。

問三 傍線部3「さては遅くこそ侍れ」は、どういうことを言ったものか。もつとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a それにしては、参内するのが遅いですね。
- b それにしては、気のきかない返事ですね。
- c それにしては、和歌のできるのが遅いですね。
- d それにしては、先払いの来るのが遅すぎますね。

問四 傍線部4「和歌にきはめたる人」の説明として、もつとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 歌壇の状況に通じている人。
- b 歌道の奥義を会得した人。
- c 和歌を作るのが上手な人。
- d 歌に関する知識をたくさん持っている人。

問五 傍線部5「面なく打ち出でたらむは」の意味として、もつともふさわしいものを、次のうちから一つ選べ。

- a 謙遜しながら詠むことは
- b 自信を持って詠むことは
- c 面目なさそうに詠むことは
- d 臆面もなく詠むことは

問六 傍線部6「あらむよりはいみじくつたなかるべし」と同じ考え方の文章を、次のうちから一つ選べ。

- a 上手な歌を作ることよりも、素早く作ることの方が大切だ。
- b 下手な和歌を披露するのは、なにもしないでいるよりもよくない。
- c 和歌を求められたらいつでも即座に作れるような日頃の習練が大切だ。
- d 即座によい歌を作ることができなかったら、別の方法を考える必要がある。
- e 下手な和歌を披露しても、不名誉にはならない。

問七 傍線部7「すさまじくてやまむ」の説明として、もつとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 興ざめな態度をとる。
- b やりすごしてしまう。
- c 無愛想に断ってしまう。
- d 知らん顔をして立ち去る。

問八 傍線部8「あさぎよめすな」の理由としてもつとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 桜が美しく咲いているから。
- b 桜が散ったさまがみごとだから。
- c 毎朝散る量が多いので、作業がたいへんだから。
- d 「このもりのとものみやつこ」に桜を愛する気持ちを持ってほしいから。
- e 桜に似つかわしくないから。

問九 傍線部9「名」の意味にもっともふさわしい熟語を、次の中から一つ選べ。

- a 名目
- b 虚名
- c 名分
- d 汚名
- e 名譽

問十 傍線部10「おぼえ」の意味にもっともふさわしい熟語を、次の中から一つ選べ。

- a 記憶
- b 興趣
- c 自信
- d 寵愛
- e 信任

問十一 敦忠の示した和歌に対する実頼の反応としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 敦忠の示した和歌がすばらしいのでとても感心し、すぐに返歌をしようとした。
- b 敦忠が即座に自分で和歌を詠まなかったことに不満を感じた。
- c 敦忠の示した和歌に対抗するには、和歌に対する自分の教養を示すしかないと考えた。
- d 敦忠の示した和歌のすばらしさをなんとかして長く後世に語り伝えたいと思った。
- e 敦忠に対して、和歌を急いで作れとせまったことを反省した。

問十二 この説話に関する説明としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 実頼が語った古歌は、敦忠の示した和歌に対する返歌としてきわめて適切であった。
- b 敦忠は、すぐに和歌を詠めなかったことを非常に恥ずかしく思った。
- c 実頼は、南殿の桜が見事に咲いているのをだれも感心しないのが不満であった。
- d 実頼は、敦忠の和歌の才能をあまり買ってはいなかった。
- e 敦忠の示した古歌は、この場にきわめてふさわしいものであるところが実頼を感心させた。

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、設問の関係上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

初備^メ在^リ小沛^ニ、不^ル意^ニ曹公卒^ル至^ル。遑遑^{コウキョウ}棄^テ家屬^ヲ、後^ニ奔^ル荊州^ニ。禪時年
 数歳、竄匿^ニ随^ヒ三人^ノ西^{シテ}入^ル漢中^ニ、為^ル人所^ニ売^ル。及^ビ建安十六年、関中破乱^シ、
 扶風人劉括避^{ケテ}乱^ヲ入^ル漢中^ニ。買^ヒ得^テ禪^ヲ、問^{ヒテ}知^リ其良家子^ノ、遂^ニ養^{ヒテ}為^ス子^ト。与^テ
 娶^レ婦^ヲ、生^ム一子^ヲ。初^ニ禪^ト与^レ備相^ニ失^ル時、識^ル其父^ノ字^ヲ玄德^ト。比^ニ舍人^ノ有^リ姓^{ナル}簡^{ナル}
 者^一。及^ビ備得^ル益州^ヲ、而簡^ヲ為^ル將軍^ト。備遣^メ簡^ヲ到^リ漢中^ニ、舍^ル都邸^ヲ。禪乃^チ詣^リ簡^ニ、
 簡相^ニ檢^シ訊^ス、事^ヲ皆^ナ符^ス驗^ス。簡喜^ビ、以^テ語^ル張魯^ニ。魯乃^チ洗^シ沐^シ送^リ詣^シ益州^ニ、備乃^チ
 立^テ以^テ為^ス太子^ト。

(『三国志』蜀書・後主伝、裴松之注)

〔注〕○備―三国時代蜀の昭烈帝、劉備。字は玄德。○小沛―江蘇省沛県。○曹公―魏の武帝、曹操を指す。○遑遑―あ
 わてふためく。○荊州―長江中流域の洞庭湖周辺の地域。劉備が曹操に敗れたのは建安五年(二〇〇)のこと。○禪―

蜀の後主劉禪。劉備の子で、蜀の二代皇帝となった。○漢中―陝西省漢中市。○関中―函谷関から隴関の間に拡がる地域。○扶風―関中にある地名。○比舍人―近所の人。隣の人。○都邸―都の官邸。○益州―今の四川省。○張魯―五斗米道の教主。当時、漢中を占拠していた。

問一 波線部 X「卒」、Y「遂」、Z「初」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つずつ選べ。

X a けつきよく

b きゆうに

c さいじに

d とうとう

Y a そのまま

b あろうことか

c とうとう

d つまるどころ

Z a そのむかし

b そこで

c ようやく

d やっと

問二 傍線部1「為人所売」、5「洗沐」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つずつ選べ。

- 1 a 人を助けるために商人となった。
- b 人々の同情を買うところとなった。
- c 他人によって裏切られた。
- d ある人によって売られた。

5 a 大事に養って

- b 身元を洗い直して
- c 衣裳の汚れを清めて
- d 世俗の垢あかをはらって

問三 傍線部2「相失時」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 劉備と劉禪が地位を失ったとき
- b 劉備が劉禪に対して失望したとき
- c 劉備と劉禪が離ればなれになったとき
- d 劉備と劉禪が自己を見失う状況となったとき

問四 傍線部3「舍」と同じ意味・用法であるものとして、もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 退^三三^レ舍^一「避^レ之

b 不^レ舍^三昼^一夜^一

c 舍^レ而^レ不^レ問

d 舍^三於^二故^一人家^一

問五 傍線部4「符驗」について、以下の問に答えよ。

A ここでの意味として、もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 劉禪は簡の試験にことごとく合格した。

b 簡の示した事はすべて過去の事実と符合した。

c 簡の問い掛けはすべて事実を言い当てていた。

d 劉禪の答えはすべて事実にびたりと合った。

B 傍線部4という結果に至るための最大の決め手となった事実を、次の中から一つ選べ。

a 建安十六年に関中へと逃れたこと。

b 扶風の人劉括が養子として育てたこと。

c 父親の呼び名を正しく知っていたこと。

d 曹操の攻撃を受けて家族を棄てたこと。

問六 この文章に史実との矛盾があることを、ある歴史家は後主が「荊州に生まる」という事実、また建興元年(二三三)に後主が「帝位に即きしとき、年十七なり」という事実を挙げて指摘する。その史実と矛盾する点に該当するものを次の中から二つ選べ。

- a 曹操に敗れた劉備が数歳であった劉禪を棄てて逃亡したこと。
- b 劉禪が建安十六年(二一一)に人の養子になって自分の子供をもうけたこと。
- c 劉禪が劉備の子として建安十二年に生まれたこと。
- d 劉備が曹操の攻撃を受けた後に劉禪が生まれたこと。
- e 劉備が荊州に勢力を伸ばす以前に劉禪はまだ生まれていなかったこと。
- f 劉禪が劉備のもとで皇太子に取り立てられたこと。

